

第1類薬のネット販売 23%が情報提供行わず

厚労省が覆面調査

インターネットの医薬品販売サイトで、副作用リスクが高い第1類医薬品を販売する際、23%が情報提供を行っていなかったことが厚生労働省の調査で判明した。情報提供していたケースでも、法律で義務づけられている「薬剤師による情報提供」を行っていた販売サイトは前年度の82.0%を12.2ポイント下回る69.8%にとどまっており、一般薬のネット販売における販売ルール徹底が課題に浮上した。

調査は、薬局・薬店が店舗やインターネットで一般薬が適正に販売されているかどうかを把握するため、調査員が消費者を装って実施しているもの。今回は全国5020の薬局・

店舗、508のインターネット販売サイトが対象となった。第1類薬をインターネットで販売するに当たり、購入者にメールなどで適切に情報提供を行っていたサイトは76.8%、「情報提供なし」のサイトは23.2%に上った。いずれも前年度（情報提供あり71.4%、情報提供なし28.6%）より改善したものの、依然としてルールの徹底が不十分だったことが明らかになった。

一般薬のインターネット販売に関する新たな規制を盛り込んだ改正薬事法・薬剤師法では、2014年6月の施行後5年をメドに販売ルールの遵守状況などを検証し、必要な措置を講じることになっている。ルール

が徹底されていない状況が続けば、再び一般薬のインターネット販売解禁の是非に議論が発展する可能性もある。

一方、店舗販売の調査では、要指導薬について、購入者本人が使用するか確認を行った薬局は、前年度から4.2ポイントマイナスの81%にとどまった。要指導薬を販売する際、情報提供を行っていた薬局・店舗販売業は86.5%だったが、文書を用いて詳細な説明を行ったのはマイナス3.7ポイントの75.8%で、文書を渡されたが詳細な説明がなかったのは4.1%（前年度4.0%）、口頭での説明しか行わなかった店舗は20.1%（16.5%）だった。

販売に当たっては、使用者の年齢、症状、他の医薬品の使用状況を確認

する必要があるが、遵守していた薬局・店舗販売業は前年度の91.8%からマイナス4.5ポイントの87.3%だった。

要指導薬は、薬剤師のみが販売できることになっており、販売時に情報提供を行った人の資格は「薬剤師」が96.3%で、ほぼルールが遵守されていた。

要指導薬だけでなく、第1類薬の販売時にも文書を用いた情報提供を行う必要があり、遵守率は前年度の73.6%からマイナス5.4ポイントの68.2%だった。文書を渡したものの詳細な説明を行わなかったのは4.0%（4.3%）、口頭のみでの説明しか行わなかったのは27.8%（22.2%）で、遵守が不十分だった。



スイッチOTC 4成分「妥当」

緊急避妊薬は「不可」

厚労省検討会議

医療用医薬品から一般用医薬品（OTC）へのスイッチを検討する厚生労働省の検討会議で、ドライアイ薬「ヒアルロン酸ナトリウム」、急性胃炎薬「レバミド」、関節痛薬「メロキシカム」、アレルギー薬「フルチカゾンプロピオン酸エステル」の4成分については、スイッチ化が妥当とされたが、緊急避妊薬「レボノルゲストレル」は「不可」と判断され、OTCへの転用が見送られた。日本産科婦人科学会が薬局で薬剤師が説明することが困難との理由で反

対したためだ。ただ、薬剤師が直接管理できるカウンターに置かれ、薬剤師のコンサルティングが要求されるBPC（Behind the pharmacy Counter）としての販売を求めていることから、要指導医薬品のような取り扱いになる可能性もある。今後、一般からの意見募集を行い、寄せられた意見をもとに11月の検討会議でスイッチ化の妥当性を確認する予定だ。

医療用薬を一般用にスイッチOTC化する新たな枠組みは、学会、団

体、消費者などから随時候補成分を受け付け、医学会などの意見を聞いた上で、評価会議でOTCにスイッチすることの妥当性を科学的に検証していくというもの。ヒアルロン酸ナトリウムをスイッチOTC化する場合に妥当とされた効能・効果は、目の乾き（涙液補助）、異物感（コロコロ、チクチクする感じ）、ソフトまたはハードコンタクトレンズを装着しているときの異物感（貼りつき感など）、疲れ、かすみ、目やに、充血など。ドライアイ、角膜保護の効能・効果は不可とされた。日本眼科学会などは、OTC化の留意事項として、1週間程度の使用でも改善が認められない場合の受診勧奨を薬剤師が行うことなどを示した。

レバミドの効能・効果は、胃潰瘍、急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期の

胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善で、日本消化器病学会は、OTC化した場合は効能・効果から「胃潰瘍」を除外すべきと主張した。

一方、スイッチ化が見送られた「レボノルゲストレル」は、日本産科婦人科学会などがスイッチ化して薬局・ドラッグストアなどで販売できるようにすれば、「意図しない妊娠の減少が期待される」としつつ、「服用後に妊娠に成功したかどうかの自己判断や、薬局で薬剤師が説明することは現状では困難」などの理由から反対し、OTCではなく、販売に当たって薬剤師が直接管理できるカウンターに置かれ、薬剤師のコンサルティングが要求されるBPC（Behind the pharmacy Counter）とすべきとの見解を示した。

きらりと光る 地域の薬局へ

「家族の希望をかなえたい」「寄り添って生活したい」
患者さまのニーズにお応えできるよう 在宅訪問に力を入れています。
「薬剤師としての新しいステージへ」コスモは挑戦しています。
コスモ訪問看護リハビリステーションと連携し多職種連携によるチームの力で
患者さまに寄り添い安心してお薬を服薬できるようサポートしています。



コスモ薬局



コスモ 訪問看護リハビリステーション

埼玉県（蓮田・大宮・越谷・黒浜・久喜・越谷東・岩槻・七左・レイクタウンDMビル・土呂
エムエム薬局・そね薬局・きらり薬局 岩槻・在宅療養支援センター・上落合）千葉県（我孫子）

埼玉県内3事業所（さいたま北・蓮田・レイクタウン）

cosmopharmacy.co.jp

cosmonurse.jp



見学・採用・インターンシップ

TEL 048-653-0306 コスモプラス(株) 採用担当 林まで 受付時間 9:00~17:30 (日祝日を除く)